



年 頭 所 感

規格建築部会長
森田 俊作
大和リース株式会社社長

平成二十二年の年頭にあたり謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

会員の皆様には平素より規格建築部会の活動に多大の御支援・御協力を賜わり厚く御礼申し上げます。

昨年、米オバマ民主党政権の誕生や日本の政権交代など、経営を取り巻く環境は大きく変わろうとしています。わが国の景気は内外の経済対策を背景に持ち直しの動きが続いていますが、失業率が過去最高水準になり、需給の悪化やデフレへの懸念もあり企業にとって一段と厳しい一年でございました。

その中で当部会活動として軽量鉄骨を主要構造とするプレハブ建築において、『リユース鉄骨部材の運用管理指針・同解説』として改訂版を発行することになりました。平成十三年に中古鉄骨部材の運用管理指針を施行していますが、その適正な運用を図り会員が供給する建築物の安全性の確保を図る為、会員各社が遵守・運用するものとしております。規格建築物における鉄骨部材等の再利用が、資源問題や環境問題改善に寄与し、業界のレベル向上、社会貢献につながるよう、より一層の御協力をお願い申し上げます。

さて昨年は八月九日に兵庫県佐用町において台風9号により住家等に多数の被害が発生しました。災害発生当日、災害救助法が適用され兵庫県より被災者支援として応急仮設住宅の建設要請を受けました。会員の御協力を頂き迅速な対応により42戸を建設し、工期通り無事完成し引き渡しを致しました。ここに改めまして、建設に従事されました会員各位の御苦勞に感謝いたします。

近年の地震被害は平成15年宮城県北部連続地震、16年新潟県中越地震、17年福岡西方沖地震、19年石川県能登半島地震、新潟県中越沖地震、20年岩手・宮城内陸地震、加えて、温暖化の影響と思われる集中豪雨によるものが顕著になっております。

政府の地震調査研究推進本部地震調査委員会の地震予測地図をみると、宮城県沖地震、東海地震、東南海地震、南海地震などの太平洋広域地域が、今後、30年以内に起きる震度6弱以上の地震発生の確率が高いと発表しております。

被災が想定される都府県では諸々の防災に関する訓練などを通じて、発災時に迅速な対応を図れるよう努めておられるところであります。

当部会では昨年各地方自治体が主催する防災訓練に参加し、応急仮設住宅の「モデルハウス」又は「展示ハウス」及び関連写真パネルを展示しております。並びに、普段から災害が発生した際の緊急対応力を高めることを目的とした、図上シミュレーション訓練にも参加し、初動体制を迅速に確立できるよう研鑽しております。

又、日頃より厚生労働省、国土交通省、経済産業省並びに都道府県との間で応急仮設住宅の建設に関する意見を交換し、災害対策業務を円滑に推進するにあたっての活動も実施しております。活動するにあたって、応急仮設住宅建設関連資料集の改訂、建設記録集の整備、海外支援用応急仮設住宅の説明資料の作成等を行い、皆様にご理解をいただけるよう努めております。

今後共、万一の大規模災害に対応出来るよう『応急仮設住宅建設・管理マニュアル』に基づく模擬訓練（図上シミュレーション訓練）を実施し、非常時での即応体制の強化を図ってまいります。

本年も経済環境が厳しく、先行き不透明な状況が続くと予想されますが、会員の皆様の御協力・御支援を賜わり、社会に貢献する使命を果たしてゆく所存です。

最後に新しい年を迎え皆様のますますのご発展とご健勝を祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。